

選挙管理委員会委員長（瀬東一雄君）

今回の市議会議員選挙における年齢別投票率についてですが、これまで国政選挙以外は算出しておりませんが、今回は算出したいと思えます。なお、参考として平成 22 年の参議院選及び昨年の衆議院選を見ますと、ともに 20 代が一番低く、参議院選挙では約 33%、衆議院選では約 28%となっております。投票率は年代が高くなるにつれ上昇し、70 代でピークを迎え、参議院選・衆議院選ともに約 80%の投票率となっており、若年層の投票率向上が課題と考えております。

投票率の低下要因については、8 年前の市議会議員選挙は合併後間もない時期であり、かつ旧の市町村ごとに選挙区が分かれていたため、有権者にとっては身近な選挙という意識が今回の選挙と比べ高かったのではないかと考えております。

また、今回の市議会議員選挙に限らず全国的な傾向として、政治や選挙に無関心な人の増加が投票率低下の要因の一つであるとと考えております。

また、選挙権の行使は、市政等に自分の意思を反映させる第一歩となるものであり、ひいては市政の進展につながる大変重要な機会であるとと考えております。